

シラバス (授業計画書)

科目名 (生物学)

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

医療の基礎となる解剖学や生理学や病理学を理解する上で必要な生物の細胞において、細胞の構造、細胞の組織、DNA、遺伝、免疫についての基礎知識を学んでいく。

2 到達目標

生物学で用いる基本的な用語を理解し、解剖学・生理学・臨床医学・病理学などの学問を理解するための橋渡しを目指す。医療従事者として最低限の知識を習得する。

3 授業の方法

毎回プリントを配布し、それに解説を加えながら空欄を埋めることにより理解を図る。

4 成績評価方法・基準

前期では試験と平常点を勘案して成績を出し、後期でも同様とします。
最終的に、前期と後期の成績を平均して60%以上であれば合格とします。

5 評価の際の特記事項

毎時間小テストを行い、それを平常点とします。欠席が多いと当然小テストの点数が無くなり、平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間を大切にすること。その日に学んだことはその時間内で理解するように心がけてください。それに加えて、その日のうちに思い起こし復習を行ってください。

7 使用教材、教具

「サイエンスビュー 生物総合資料」実教出版

8 学生へのメッセージ

最初は新しい言葉が沢山出てきてパニックになるかもしれませんが、重要な言葉は何度でも出てきます。それらを少しずつ覚えていくことで理解が急速に容易になるはずです。先ず用語の定義と理解です。前期は大変でも後期には必ず楽になります。諦めないことが大切です。夢に向かって頑張りましょう。

9 教員氏名 (松尾 泰博)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 非常勤講師)

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (生物学)

回数	授業内容
1	生物学の歩み 生命の誕生と細胞の誕生
2	細胞成分, タンパク質, 糖質, 脂質
3	細胞の構造, 細胞小器官
4	細胞の構造, 細胞質基質, 細胞骨格, 細胞外基質
5	細胞膜, 浸透圧
6	細胞膜, 受動輸送, 能動輸送
7	消化管における受容器と吸収と血管
8	腎臓における再吸収と分泌と水の移動
9	エネルギーの獲得, 発酵, 嫌気呼吸細胞分裂, 体細胞分裂
10	エネルギーの獲得, 好気呼吸細胞分裂, 減数分裂
11	細胞分裂
12	遺伝, メンデルの法則
13	遺伝, 染色体と性
14	いろいろな遺伝
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	DNAの発見と構造
18	DNAの複製と修復, PCR
19	RNAの種類と働き
20	タンパク質の合成
21	突然変異, 遺伝子変異とがん
22	バイオテクノロジー, 遺伝子組み換え, ゲノム編集
23	バイオテクノロジー, 遺伝子治療, 再生医療
24	バイオテクノロジー, ES細胞, iPS細胞, 幹細胞
25	生体防御システム
26	非特異的生体防御システムと炎症
27	特異的生体防御システムと液性免疫
28	特異的生体防御システムと細胞性免疫
29	アレルギー
30	自己免疫と疾患
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 栄養学 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

栄養素の生理的作用、エネルギー源としての役割と消化・吸収されるしくみについて、基本事項を学習する。

2 到達目標

栄養素の作用、消化器系の構造、栄養素が消化吸收・代謝されるしくみを説明できる力を身につけさせる。

3 授業の方法

教科書に沿って解説する。必要に応じてスライドの使用や補足資料の配付を行う。また授業時間外の学習を促すため、レポート課題を与える。

4 成績評価方法・基準

小テスト成績 20%、期末試験成績 80%の割合で、総合的に中間試験評価と定期試験評価を行う。

5 評価の際の特記事項

中間試験評価と定期試験評価の両方に合格しなければならない。中間試験評価で合格点に達しなかった場合には、定期試験時にも再試験を実施する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

シラバスに沿って授業を進めるので、その日の授業内容について教科書を読み、予習して授業に臨むこと。予習で理解できなかったことを授業で解決するよう意識し、授業後は必ずその日の内容をまとめて、知識の整理・定着に努めること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「生理学 改定第4版」南江堂

全国柔道整復学校協会編「解剖学 改定第2版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

栄養素の摂取と利用をテーマに、解剖学と生理学の内容を結びつけながら学習を進める。

9 教員氏名（ 山邊 芳久 ）

所属（ ところ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (栄養学)

回数	授業内容
1	消化器系① (消化器系の構成 消化管の基本構造)
2	消化器系② (口腔の構造)
3	消化器系③ (唾液腺 歯)
4	消化器系④ (舌 舌乳頭)
5	消化器系⑤ (咽頭 ワルダイエルの咽頭輪 食道)
6	消化器系⑥ (嚥下 腹膜 間膜)
7	消化器系⑦ (胃 噴門と幽門 胃底 小彎と大彎)
8	消化器系⑧ (胃腺 主細胞 壁細胞 副細胞)
9	消化器系⑨ (小腸 十二指腸 空腸 回腸 絨毛)
10	消化器系⑩ (大腸 盲腸 バウヒン弁 虫垂 結腸)
11	消化器系⑪ (結腸ヒモ 直腸 肛門括約筋)
12	消化器系⑫ (肝臓 肝小葉 類洞)
13	消化器系⑬ (胆汁流路 胆嚢)
14	消化器系⑭ (膵臓 膵管 ランゲルハンス島)
15	中間試験
16	試験解説 まとめ復習
17	生体に必要な栄養素① (糖質 タンパク質 アミノ酸)
18	生体に必要な栄養素② (脂質 トリグリセリド 脂肪酸 リポタンパク)
19	生体に必要な栄養素③ (ビタミン欠乏症) 栄養素の代謝① (ATP の構造)
20	栄養素の代謝② (解糖系 クエン酸回路 電子伝達系)
21	栄養素の代謝③ (栄養素代謝 吸収期と空腹期 糖新生)
22	栄養素の代謝④ (呼吸商 基礎代謝)
23	消化と吸収① (消化器系の構成 機械的消化 化学的消化)
24	消化と吸収② (口腔、咽頭、食道の機能 咀嚼と嚥下)
25	消化と吸収③ (胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓の機能)
26	消化と吸収④ (消化管運動と消化液分泌の調節)
27	消化と吸収⑤ (糖質 唾液 膵液 膜消化 担体)
28	消化と吸収⑥ (タンパク質 胃液 膵液 膜消化 担体)
29	消化と吸収⑦ (脂質 乳化とミセル 膵液 膜消化 カイロミクロン)
30	まとめと復習 (消化器系の機能、消化・吸収のしくみ)
31	定期試験
32	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療コミュニケーション ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

臨床心理学に関わる知識と理論を学習し、より良い健康的な心の状態を知り、診断や治療の場面でのコミュニケーション能力の向上をはかる。

2 到達目標

人格の成り立ちや心の問題を考えることで、そのメカニズムを理解し、会話力を使った具体的援助の理論とスキルを身につける。

3 授業の方法

診断や治療における会話場面に必要な基礎理論とスキルを板書に具体的にまとめながら説明していくので、各自こころの動きを感じ理解しながら、ノートに重点を整理し、後で復習できるような参考書的なノート作成を心掛けてほしい。

4 成績評価方法・基準

定期試験 50%、レポート・ノート 50%

5 評価の際の特記事項

ノートが、実際の場面に利用できるように分かりやすくきちんと整理され、これからの心理的問題に対応できるような参考書的にまとめられているかを評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

下記の参考書などを読み、ノートにまとめた“心に関する理論”を実際の生活場面で使っていく事が、コミュニケーションスキルを身につける早道になります。

7 使用教材，教具

参考図書「こころとかかわる臨床心理（基礎・実際・方法）第2版」ナカニシヤ出版
著者 川瀬正裕、松本真理子、松本英夫

8 学生へのメッセージ

自分自身の心の状態を意識し、内なる人間性を感じて、授業内容を理解してほしい。

9 教員氏名（ 苑田 俊明 ）

所属（ 長崎県・佐賀県教育委員会、長崎県臨床心理士会 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 医療コミュニケーション ）

回数	授業内容
1	治療者の「心の健康」の必要性
2	①心について ②健康な心について
3	クライアントの不適応について
4	①適応状態について ②本当の治るとは
5	アセスメントに必要なコミュニケーションスキル
6	①治療者の純粋性・主観と客観の心
7	②共感と受容 ③開かれた質問と閉じた質問
8	④親子アセスメント ⑤検査について
9	治療者の「自我」について考える
10	治療者の「自己」について考える
11	人間を理解するための人格理論から、会話スキルを学ぶ
12	①フロイトの精神分析理論
13	②ユングの分析的心理学 ③ロジャースの自己理論
14	前期の総復習
15	中間試験
16	心の発達理論から、会話スキルを学ぶ
17	①マラーとウェニコットの発達理論
18	②エリクソンの心理社会的発達理論
19	いろいろな心理療法から、コミュニケーションスキルを学ぶ
20	①クライアント中心療法
21	②フロイトの精神分析療法 ③ユングの分析的心理療法
22	④家族療法 ⑤行動療法
23	⑥認知行動療法その1
24	⑦認知行動療法その2
25	事例により、コミュニケーションスキルを考える
26	①発達障害を持つ人への対応
27	②引きこもり対応
28	ストレスマネジメント
29	①ストレスの理解 ②コーピング
30	心の発達理論から、会話スキルを学ぶ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 情報リテラシー ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

コンピュータ演習の前半では、プレゼンテーションなどで使用される「PowerPoint」を使用し、課題を設定した資料作成（社会人として習得しておくべきパワーポイント）の制作スキルを学びます。また、後半では、Wordでの表やグラフ作成の基礎とExcelの連携について学習します。

2 到達目標

アプリケーションの機能概要（操作）の理解と画面操作のみではなく、ショートカットキーの同時使用で、作業の効率化が出来る。また、プレゼンや報告書の制作スキルを習得します。

3 授業の方法

PC室にて、講師用PCをプロジェクターに写し、操作方法を同時に行いながら修得します。また、各章毎に練習問題を実施し、回答を行いながら修得します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 70%、授業態度 30%

5 評価の際の特記事項

授業態度は、授業や課題への取り組みや出欠を含めて総合的に判断します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って講義を行います。また、PC室の空き時間は自由にPCが使用可能である為、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

「よくわかる Microsoft Word 2024 & Microsoft Excel 2024 & Microsoft PowerPoint 2024」 FOM 出版

8 学生へのメッセージ

ビジネス業界で必ず必要となる「文書作成や表計算」をMicrosoft社の「Office2024」を使用して基礎から学習します。今回はWord、Excel、PowerPointを基礎から学習しますので、日常生活でも活用してください。

9 教員氏名（ 松本 雅美 ）

所属（ ころろ未来高等学校 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (情報リテラシー)

回数	授業内容
1	自己紹介 PC室の説明 授業内容の説明
2	第1章 word 第2章 文書作成 STEP1～4
3	第2章 STEP5～8
4	第3章 グラフィック
5	第4章 表のある文書作成
6	第5章 Excel 第6章データ入力 STEP1～3
7	第6章 STEP4～6
8	第7章 表の作成
9	第8章 Excel グラフ作成
10	第9章 データ分析
11	第10章 PP 第11章プレゼン作成
12	第12章 スライド実施
13	第13章 データ連携
14	総まとめ
15	定期試験
16	答案返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医用英語 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

グローバル化が加速する中、日本国内に居住する外国人の数は増加しています。同時に海外、特に開発途上の国々では、日本人の医療スタッフが多数活躍しています。外国人患者との意思疎通のために、英語運用能力を基礎からマスターします。

2 到達目標

前期は、前半に日常生活を送るうえで、欠くことのできない表現を場面別に習得し、運用練習を行います。コミュニケーションの難しさを克服し、意思疎通がスムーズに行えた時の喜びを体得しましょう。「外国語」という障壁（バリア）をできるだけ取り除きましょう。後半は、テキストを使用し、実際の業務で頻繁に使用される表現を場面別に習得し、運用練習を行います。

後期も、引き続きテキストを使用します。外国人患者の信頼を獲得し、安心して治療を受けられるようコミュニケーションスキルを高めます。

3 授業の方法

基本的な流れは、「表現習得」⇒「ペア練習」の形をとります。さまざまな表現を習得した後、ペアで練習を行い、コミュニケーション能力を高めます。なお授業予定は、進捗状況によって変更となる場合があります。

4 成績評価方法・基準

定期試験及び課題 90%、授業での活動・参加状況 10%

5 評価の際の特記事項

定期試験はもちろん重要ですが、出席状況・小テスト・授業中の取り組み（ペア練習）を上記の割合で加味し、総合的に評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業以外では、普段から声に出して学んだ内容を復習してください。

7 使用教材、教具

前期は、オリジナルの教材を配布し使用します。各授業の前に配布されますので、バインダーやクリヤファイルに入れて、保管してください。

後期は、テキスト「柔道整復師のための英会話表現」・「オリジナル文例集」・「筋肉名（上肢・下肢・体幹）」を使用します。

8 学生へのメッセージ

英語の得意・不得意は問いません。学生の皆さんの前向きな取り組みを期待しています。「英語検定」等の資格試験へチャレンジしてみることをお勧めします。

9 教員氏名（ 白石 克文 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校非常勤講師 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (医用英語)

回数	授業内容
1	コミュニケーション英語の重要性と自己紹介
2	全員の自己紹介とそれに対する総評
3	日本語にない英語の発音と日常的なあいさつ
4	気分・調子・体調についての表現
5	お礼をいう (基本・応用表現)
6	申し訳ない気持ちを伝える
7	アドバイスを求める・与える
8	誘う・応じる・断る表現
9	電話をかける・受ける・電話での様々な応対
10	とっさの時に役立つ表現
11	英会話表現テキスト P01～05 オリジナル文例集
12	英会話表現テキスト P06～09 オリジナル文例集
13	英会話表現テキスト P10～14 オリジナル文例集
14	英会話表現テキスト P15～18 オリジナル文例集 中間試験対策
15	中間試験
16	英会話表現テキスト P19～21 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
17	英会話表現テキスト P22～26 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
18	英会話表現テキスト P27～31 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
19	英会話表現テキスト P32～38 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
20	英会話表現テキスト P39～48 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
21	英会話表現テキスト P49～54 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
22	英会話表現テキスト P55～57 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
23	英会話表現テキスト P58～63 オリジナル文例集 筋肉名(下肢)
24	英会話表現テキスト P64～65 オリジナル文例集 筋肉名(体幹)
25	英会話表現テキスト P66～76 オリジナル文例集 筋肉名(体幹)
26	英会話表現テキスト P77～84 オリジナル文例集 筋肉名(体幹)
27	定期試験対策 筋肉名 (上肢・下肢) まとめ
28	定期試験対策 筋肉名 (体幹) まとめ
29	後期まとめ
30	英会話表現テキスト P19～84 オリジナル文例集 筋肉名(上肢)
31	定期試験
32	答案返却・解答・解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

人体の骨格および筋肉について学習する。

2 到達目標

人体の骨格の構造と筋肉の起始停止やその作用について理解する。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用し、授業資料による講義。骨および筋の模写。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「解剖学 改訂版第2版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

運動器は施術所などで治療する際の基礎的な知識です。暗記が多くなりますが、一つ一つ覚えましょう。

9 教員氏名 （ 樋口 裕次郎 ）

所 属 （ ところ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学 I ）

回数	授業内容
1	解剖学総論
2	骨格系 総論 身体構造の全体像
3	脊柱の構造
4	胸郭の構造
5	上肢骨 1 上肢帯（鎖骨、肩甲骨）
6	2 上腕骨、橈骨、尺骨
7	3 手根骨
8	下肢骨 1 下肢帯（寛骨）
9	2 大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨
10	3 足根骨
11	頭蓋骨 1 脳頭蓋
12	2 顔面頭蓋
13	前期まとめ① 骨総論、四肢の骨
14	前期まとめ② 軸骨格、頭蓋骨
15	中間試験
16	試験解説
17	筋系 総論
18	体幹の筋 1 胸部、腹部
19	2 背部
20	上肢の筋 1 上肢帯、上腕屈筋・伸筋
21	2 前腕屈筋
22	3 前腕伸筋
23	下肢の筋 1 下肢帯
24	2 大腿伸筋・屈筋・内転筋
25	3 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
26	頭頸部の筋 1 表情筋
27	2 咀嚼筋
28	後期まとめ① 上半身の筋
29	後期まとめ② 下半身の筋
30	後期まとめ③ 頭頸部の筋
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

解剖学を学習する上で必要となる用語や身体構造の成り立ちについて概説する。脈管系および内臓系（消化器系・呼吸器系・泌尿生殖器系）について学習し、生命活動の根幹を担う器官の形態・構造を理解する。

2 到達目標

解剖学を学習する意義を理解し、基礎医学を学習するうえで求められる人体構造への理解と尊厳を身につける。

3 授業の方法

教科書の内容を中心として、PC プロジェクタを利用したスライドによる講義を行う。スライド内容についてはレジュメ資料を配布し、講義内容理解の補助とする。随時小テストを実施し、講義内容の理解を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験の成績を 100%として評価する。

5 評価の際の特記事項

小テストを平常点とするため、欠席が多いと平常点も減少します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習を重視する。講義理解度確認のために重要な箇所については国家試験形式の小テストを実施する。自己採点評価を通じて知識の補完を図るとともに、国家試験に向けた自主学習法を習得する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「解剖学 改訂版第2版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

解剖学は医療を学ぶ全ての学生が通過しますが、おぼえなければならないことの多さと皆が苦勞するところです。近代解剖学の歴史は 500 年にも及び、得られた知見は膨大です。それ故全てを網羅することには困難が伴いますが、同時に知識の宝庫としての面白さもあります。苦しい中でも楽しみを見つけつつ知識を深めていきましょう。

9 教員氏名 （ 井川 一成 ）

所 属 （ 常岡歯科診療所 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名（ 解剖学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	人体解剖学概説 A 意義と分類
2	B 細胞および組織（組織） C 発生
3	D 器官系統 E 人体の区分
4	脈管系 A 総論
5	B 心臓
6	C 心脈管系
7	動脈系（体循環、肺循環）
8	動脈系（上肢）
9	動脈系（下肢）
10	静脈系（伴行静脈）
11	静脈系（奇静脈系）
12	D リンパ系
13	前期復習 動脈系
14	前期復習 静脈系
15	中間試験
16	内臓系 A 消化器（構造）
17	A 消化器（歯・舌・咽頭・食道）
18	A 消化器（胃・小腸）
19	A 消化器（結腸・肝臓）
20	A 消化器（胆嚢・膵臓・腹膜・呼吸器）
21	B 呼吸器（気管支）
22	B 呼吸器（肺）
23	C 泌尿器（腎臓）
24	C 泌尿器（尿管・膀胱・尿道）
25	D 生殖器（構造）
26	D 生殖器（男性生殖器）
27	D 生殖器（女性生殖器）
28	後期復習 消化器系、呼吸器系
29	後期復習 泌尿器系、生殖器系
30	内臓系 A 消化器（構造）
31	定期試験
32	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (生理学 I)

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

生理学の前半として「生理学の基礎」「筋」「神経」「運動」「感覚」「内分泌」「生殖」について学ぶ。また味覚の体験実習を1回行なう。

2 到達目標

- ・生理学の位置づけを理解する。
- ・筋肉の機能を説明できる。
- ・神経の基本的機能を説明できる。
- ・運動系の機能を説明できる。
- ・感覚器系の機能を説明できる。
- ・内分泌系の機能を説明できる。
- ・生殖器系の機能を説明できる。

3 授業の方法

教科書やパワーポイント・プリントを用いて授業を進める。その日の授業で学んだことを確認できるよう授業途中または最後に小テストを行う。また單元ごとに国家試験問題を用いて問題演習を行うことにより、知識習得の確認と定着を行う。さらに項目「感覚の生理」では特殊感覚である味覚の実習を行い、味覚障害を体験することにより理解を深め、生理学への興味を引き出す。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、平常点（出席および小テスト）を 20%として評価する。

5 評価の際の特記事項

前期と後期に分けて2回、定期テストを行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

單元ごとに教科書および配布プリントを用いて、復習を中心とした学習を行ってください。授業で配布した国家試験問題は必ず復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学 改訂第4版」南江堂

8 学生へのメッセージ

初めて生理学の教科書を読んでもひとりで理解することは難しいかもしれません。しかし生理学は自分の身体の中で起こっていることを学ぶ、とても身近な学問です。「生きる」ということがどんなに素晴らしいメカニズムで成り立っているかを感じ、興味を持って取り組んでもらえるよう、わかりやすい授業を心がけますので、授業のできる限り学び取ってください。

9 教員氏名 (藤山 理恵)

所属 (長崎大学生命医科学域総合歯科臨床教育学分野)

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容	
1	1. 生理学とは	A 細胞の構造と機能 前半
2		A 細胞の構造と機能 後半
3		B 組織・器官と生体の機能系
4		C 生体の恒常性と統合機能
5		D 体液の区分と組成
6	2. 筋の生理	A 骨格筋 前半
7		A 骨格筋 後半
8		B 心筋
9		C 平滑筋
10	3. 神経の生理	A 神経信号の伝達
11		B 神経系の構成
12		C 脳の高次機能
13		D 内蔵機能の調節
14	前期まとめ	
15	中間試験	
16	答案返却・解説	
17	4. 運動の生理	A 運動の調節 B 運動神経と運動単位
18		C 脊髄による反射とその調節
19		D 脳幹による運動調節 E 高次運動機能
20	5. 感覚の生理	A 感覚の一般的な特性
21		B 特殊感覚 味覚の体験実習
22		C 体性感覚
23		D 内臓感覚 E 痛覚
24	6. 内分泌	A 内分泌腺とホルモン
25		B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 前半
26		B それぞれの内分泌腺とホルモンのはたらき 後半
27		C ホルモンによる内部環境の恒常性の維持
28	7. 生殖	A 性分化 B 男性生殖器
29		C 女性生殖器 D 妊娠と分娩
30	後期まとめ	
31	定期試験	
32	答案返却・解説	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 解剖生理学 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

人体の基本的な仕組みについて、解剖学と生理学を統合して総合的に理解する。

2 到達目標

人体の仕組みの基本的な用語について、簡単に説明できるようになる。

3 授業の方法

簡単なプリントを配付し、スライドを使って解説する。

4 成績評価方法・基準

小テスト 20%、定期試験 80%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

別に授業で行われている解剖学と生理学と合わせて学習する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「生理学 改訂第4版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「解剖学 改訂版第2版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

別に授業がある解剖学と生理学で理解が難しい内容があれば、特に取り上げて解説する。

9 教員氏名 （ 世羅 至子 ）

所 属 （ 長崎県立大学看護栄養学部栄養健康学科 ）

10 特記事項

通常教員による授業科目

科目名 (解剖生理学 I)

回数	授業内容
1	解剖生理学とは
2	細胞
3	皮膚と膜
4	血液循環
5	神経
6	感覚器
7	内分泌
8	骨格と筋
9	呼吸器
10	消化器
11	泌尿器
12	生殖器
13	免疫
14	おさらい
15	定期試験
16	解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

相対する二人が、互いに相手の動きに応じて技能を競い合う格闘形式の運動であるので、相手を尊重し安全に練習や行動ができる能力を育てる。

2 到達目標

基本動作（移動、崩し）と受身の習得を中心に学習させ、個人の体力、能力に応じた安全で効果的な練習方法によって柔道技術の習得を目標とする。

3 授業の方法

講堂に畳を敷き実施する。

4 成績評価方法・基準

基本実技試験で評価するが、出席率・授業態度も加味する。

5 評価の際の特記事項

授業態度とは、身だしなみ・適切な返事・適切な行動・周りに迷惑をかけないなどを評価に入れる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技試験前の自己練習においては、必ず専任教員に申告して実施すること。特に怪我などに留意し、練習後は清掃を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道」（南江堂出版）のほか、資料を適宜配布する。

8 学生へのメッセージ

初心を忘れず、怪我に注意して毎回の授業に取り組んで下さい。

9 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

柔道有段者として認定実技柔道審査員登録。柔道指導経験をもとに実技を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（柔道Ⅰ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	礼法、後受身
3	横受身、前方受身
4	前回受身
5	組み方、体さばき
6	形（浮落）
7	形（背負投）
8	形（肩車）
9	形（払腰）
10	形（浮腰）
11	形（釣込腰）
12	形（送足払）
13	形（支釣込足）
14	形（内股）
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

総論は骨折損傷を学び、骨の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。また、診察方法や外傷の予防方法も学び適切な指導を行うための知識を習得する。

各論では、頭部骨折へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら関節や軟部組織損傷を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱う運動器損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

回数	授業内容
1	業務範囲と心得
2	柔道整復師倫理綱領
3	骨の形態と機能
4	骨損傷の概説
5	骨折部の分類（骨の性状）
6	骨折部の分類（骨損傷の程度による分類）
7	骨折部の分類（骨折線の方向による分類）
8	骨折部の分類（骨折部と創部との交通の有無による分類）
9	骨折部の分類（骨折の数～外力の働いた部位による分類）
10	骨折部の分類（外力の働き方による分類）
11	骨折部の分類（骨折部の部位による分類）
12	骨折の症状（一般症状）
13	骨折の症状（固有症状）
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	前期復習
18	骨折の合併症（併発症）
19	骨折の合併症（続発症）
20	骨折の合併症（後遺症）
21	小児骨折
22	高齢者骨折
23	骨折の予後
24	骨折の治癒に影響を与える因子
25	診察（注意点～分類）
26	治療計画の作成
27	施術録の扱いと記載
28	頭蓋骨骨折
29	顔面頭蓋骨骨折
30	後期まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

総論は関節損傷および軟部組織損傷を学び、各組織の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。また、外傷の治療法（整復法・固定法）、患者の指導管理を学び、臨床現場に活用できる知識を習得する。

各論では、体幹骨折へと学習を進めていく。

2 到達目標

ある程度の解剖学を行いながら骨の構造や役割を理解していく。柔道整復師が業務として取り扱う骨折の損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 陣内 和幸 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	柔道整復術および柔道整復師の沿革
2	関節の構造と機能
3	関節部損傷の概説
4	関節部損傷の分類
5	鑑別診断を要する類症
6	脱臼（定義と概説、発生頻度）
7	脱臼（分類①関節の性状～関節面相互の位置）
8	脱臼（分類②数～外力の働いた部位）
9	脱臼（分類③発生時期～経過）
10	脱臼（症状、合併症）
11	脱臼（整復障害）
12	脱臼（経過と予後）
13	関節構成組織損傷
14	前期のまとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	整復法とは
18	A 徒手整復施行時の配慮
19	B 骨折の整復法
20	C 脱臼の整復法
21	D 徒手整復後の確認と配慮
22	E 軟部組織損傷の初期処置
23	固定法とは
24	A 固定施工時の配慮
25	B 固定後の配慮
26	頸椎骨折
27	胸椎骨折
28	腰椎骨折
29	肋骨骨折
30	後期のまとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な上肢骨折（鎖骨～前腕骨）の知識を深め、担当教員の実務経験を基にした患者への接し方、所見の取り方、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生机序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

パワーポイントや板書、資料と教科書を基に授業を展開する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後は、その日のうちに必ず復習し、分からない箇所があれば質問し、理解をすること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 赤島 紋花 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折
2	肩甲骨骨折 1 体部および上・下角骨折
3	2 関節窩骨折
4	3 頸部骨折
5	4 肩峰骨折
6	5 烏口突起骨折
7	上腕骨近位部骨折 1 骨頭骨折
8	2 解剖頸骨折
9	3 外科頸骨折
10	4 大結節単独骨折
11	5 小結節単独骨折
12	6 近位骨端線離開
13	前期まとめ①（鎖骨、肩甲骨骨折）
14	前期まとめ②（上腕骨近位部骨折）
15	中間試験
16	試験解説
17	上腕骨骨幹部骨折
18	上腕骨遠位部骨折 1 顆上骨折
19	2 外顆骨折
20	3 内側上顆骨折
21	前腕近位部骨折 1 橈骨近位端部骨折
22	2 肘頭骨折
23	前腕骨骨幹部骨折 1 橈骨骨幹部骨折
24	2 ガレアジ骨折
25	3 尺骨骨幹部骨折
26	4 モンテギア骨折
27	5 橈・尺両骨骨幹部骨折
28	前腕骨遠位端部骨折
29	後期まとめ①（上腕骨骨幹部、遠位端部骨折）
30	後期まとめ②（前腕骨骨折）
31	定期試験
32	試験解説

科目名 (基礎柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
33	後療法 容量
34	後療法 患者の準備
35	手技療法 (基本法)
36	手技療法 (適応、禁忌)
37	運動療法 (基本型)
38	運動療法 (種類)
39	運動療法 (実際)
40	物理療法 (電気療法)
41	物理療法 (温熱療法)
42	物理療法 (光線療法、寒冷療法)
43	物理療法 (牽引療法、その他)
44	指導管理 (患者と環境の把握)
45	指導管理 (環境に対する指導)
46	指導管理 (自己管理に対する指導)
47	定期試験
48	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

総論では筋、腱、末梢神経損傷を学び、各組織の構造と機能を理解し、各論への理解を進めるうえでの基礎とする。また、診察方法や外傷の予防方法も学び適切な指導を行うための知識を習得する。

各論では胸部骨折へと学習を進めていく。

2 到達目標

柔道整復師が行える治療法の基礎を理解することを目標とする。

外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画（シラバス）を参考に、その日に学習する範囲を教科書で確認し、事前に予習を行っておいてください。授業終了後は、教科書を読み返して、必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点はその都度質問をして吸収してください。

9 教員氏名 （ 永田 俊晴 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への物理療法による治療経験をもちに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	人体に加わる力
3	痛みの基礎
4	筋の損傷（構造と機能、概説、分類）
5	筋の損傷（症状～予後）
6	腱の損傷（構造と機能、概説、分類）
7	腱の損傷（症状、治癒機序）
8	末梢神経の損傷（構造と機能、概説、分類）
9	末梢神経の損傷（症状、治癒過程）
10	外傷予防（第一段階）
11	外傷予防（第二段階）
12	外傷予防（第三段階）
13	肋骨、肋軟骨骨折
14	胸骨骨折
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師が実際に行う後療法を学び、適切な指導を行うための知識を習得する。

2 到達目標

柔道整復師が業務として取り扱う損傷についての過程や説明まで行えるようになることを目標とする。また、実際に施術所で行っている後療法についても意義や説明を行えるようになることを目標とする。

3 授業の方法

教科書を用いた講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

45分授業と短いため、特に授業進度計画に沿った教科書の予習、復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせず、都度質問をして、吸収してください。

9 教員氏名（ 松川 結希 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	損傷の診察（観察および問診）
2	損傷の診察（触診）
3	損傷の診察（機能的診察）
4	鑑別診断
5	合併症の有無を判定する
6	その他の治療法に関する情報の提示
7	説明と同意（損傷や疾患の状況の説明）
8	説明と同意（損傷や疾患の予想される経過の説明）
9	説明と同意（施術や応急的整復の必要性の説明）
10	徒手整復
11	固定法
12	整復・固定後の確認（整復状態の確認）
13	整復・固定後の確認（施術行為による二次的障害発生の確認）
14	医科との連携
15	中間試験
16	試験解説
17	固定期間の検討
18	後療法（固定）
19	後療法（経過）
20	後療法（物理療法、手技療法、運動療法）
21	後療法（後療法の適否の判定）
22	治癒の判定（骨強度の回復）
23	治癒の判定（関節可動域の回復）
24	治癒の判定（筋力の回復）
25	治癒の判定（持久力の回復）
26	治癒の判定（運動協調性の回復）
27	注意事項
28	指導管理
29	予後
30	まとめ
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ 物理療法機器の取扱い ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な物理療法の知識と技能を学習する。

2 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

全国柔道整復師協会「柔道整復学・理論編 改定第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

物理療法は柔道整復業務で大事な所なのでしっかり勉強して下さい。業務範囲を理解し、その使用方法、禁忌をできる限り理解するように、適時質問するようにしてください。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 / 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床柔道整復学Ⅳ 物理療法機器の取扱い)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	物理療法の分類
3	物理療法の説明と同意
4	物理療法の禁忌
5	物理療法施行時の患者体位や患肢の肢位
6	物理療法の刺激強度
7	物理療法の変更
8	物理療法の指導管理
9	物理療法機器の安全対策
10	電気療法 (低周波電気刺激療法)
11	電気療法 (中周波電流療法)
12	変換熱療法 (超音波療法)
13	伝導熱療法 (ホットパック療法)
14	前期まとめ
15	中間試験
16	試験解説
17	伝導熱療法 (パラフィン浴療法・水治療法)
18	輻射熱療法
19	変換熱療法 (超短波療法)
20	変換熱療法 (極超短波療法)
21	変換熱療法 (超音波療法)
22	光線療法
23	寒冷療法 (伝導冷却法)
24	寒冷療法 (対流冷却法)
25	寒冷療法 (気化冷却法)
26	牽引療法 (頸椎介達牽引)
27	牽引療法 (腰椎介達牽引)
28	間欠的圧迫法
29	後期の復習①電気・温熱療法
30	後期の復習②寒冷・牽引・間欠療法
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の基礎となる包帯法、軟性材料、硬性材料について基本技術を修得する。

2 到達目標

基本包帯法、冠名包帯法などの技法を修得し各部位への包帯固定ができる。テーピングの基礎を修得する。軟性材料、硬性材料の特性を知る。

3 授業の方法

教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

実技授業は実習着を着用して臨むこと。着用していない場合は出席を認めない。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業時間以外の反復練習が技術向上の鍵です。様々な体型・体格の方、同性・異性問わず包帯を巻くことも大切です。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編 第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、施術法習得の一環として確実に基礎が身に付くように努力をしてください。実習着は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 松川 結希 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (柔道整復実技 I)

回数	授業内容
1	実習の受け方 包帯固定学
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	1 環行帯
5	2 螺旋帯
6	3 蛇行帯
7	4 折転帯
8	5 亀甲帯
9	6 麦穂帯
10	デゾー包帯法
11	デゾー包帯法 復習
12	ヴェルポー包帯法
13	ジュール包帯法
14	三角巾を用いた固定
15	中間試験
16	試験解説
17	各部位への包帯法 1 肩関節
18	2 肘関節
19	3 前腕部
20	4 手関節 5 指
21	6 膝関節
22	7 下腿部
23	8 足関節
24	9 体幹部
25	テーピング 1 足関節
26	2 膝関節
27	3 肘関節
28	4 肩関節
29	5 指
30	6 下腿部
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ 臨床実習前施術試験等 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術として必須である、診察法について学ぶ。

2 到達目標

柔道整復師として必要なコミュニケーション能力や解剖学の知識を基に、臨床現場で実践できる問診の技術を身に付けることを目標とする。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、基本の診察法をロールプレイで通して行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

45分授業になるので、各自予習、復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編改定第2版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「解剖学 改訂第2版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

実技授業になるので、白衣は必ず着用すること。臨床力を身に付けるため、まじめに実技実習に取り組むこと。白衣は常に清潔を心掛けること。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外す。長髪の場合は後ろにまとめること。

9 教員氏名 （ 樋口 裕次郎 ）

所 属 （ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷の施術
3	観察および問診
4	視診（皮膚、筋肉）
5	視診（歩容、代償運動）
6	触診（骨）
7	触診（筋肉）
8	触診（脈管）
9	触診（神経）
10	機能的診察
11	合併症の有無
12	説明と同意（損傷や疾患の状況）
13	説明と同意（予想される経過）
14	説明と同意（施術や整復の必要性）
15	中間試験
16	試験解説
17	肩部外側からの打撃による損傷の診察
18	肩部前方または前外方からの打撃による損傷の診察
19	肩部後方または後外方からの打撃による損傷の診察
20	肩峰部の打撃による損傷の診察
21	肩甲骨部の打撃による損傷の診察
22	肩関節外転位で手掌部を衝いて生じた損傷の診察
23	肩関節内転位で肘部を衝いて生じた損傷の診察
24	肩関節外転位で肘部を衝いて生じた損傷の診察
25	明確な原因のない損傷の診察 1 野球
26	2 バレーボール
27	3 テニス
28	4 水泳
29	5 体操競技
30	6 重量物
31	定期試験
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ 高齢者の外傷予防 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

高齢者の身体の生理的・機能的特徴を理解し、高齢者に発生頻度の高い外傷について、その発生原因と予防について学ぶ。

2 到達目標

柔道整復術を基本に、機能訓練指導やリハビリテーションからみた高齢者の外傷予防の知識を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、外傷予防の技術を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師が高齢者に関わる施術について、高齢者の身体的特徴や外傷を学び、その外傷予防の知識を身につけてください。白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。長髪の場合は後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ 高齢者の外傷予防 ）

回数	授業内容
1	高齢者の身体的特徴：生理学的特徴
2	ロコモティブシンドロームとは
3	ロコモティブシンドロームと運動器不安定症との相違，ロコチェック
4	ロコモーショントレーニング
5	高齢者の転倒予防
6	機能訓練指導員，介護予防・機能訓練指導員認定柔道整復師
7	リハビリテーションと機能訓練の相違
8	機能訓練の対象となる障害の捉え方
9	高齢者の疾患の特徴
10	高齢者に多い外傷
11	高齢者の外傷予防
12	高齢者への施術の限界
13	機能訓練で提供する運動と要点
14	まとめ
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技VI競技者の外傷予防 ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

競技者の外傷予防について、運動生理学を理解しながらスポーツ外傷や障害予防法を理論とその実際を学ぶ。

2 到達目標

各種競技の特徴を学びながら運動生理学の理論を理解し、好発する各損傷を知り、それらの予防法の基礎について学んでいきます。特に、専門基礎分野と専門分野の知識が不可欠となるので、解剖学、生理学、柔道整復理論を学習し、理解を深めるように日々の学習に取り組んでください。

3 授業の方法

理論学習は教室で、実技は実習室において実施します。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得する上で重要なことを認識すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「競技者の外傷予防」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

専門基礎医学である生理学の理解と、運動学で引用される解剖学の理解度が求められるので各科目の予習と復習をするようにしてください。白衣は常に清潔にしましょう。爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 松川 結希 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅵ ）

回数	授業内容
1	運動生理学の概要
2	運動が生体に与える影響
3	運動のエネルギー代謝
4	無酸素性エネルギー供給機構
5	有酸素性エネルギー供給機構
6	運動強度の違いによるエネルギー供給機構の動員割合
7	運動と呼吸・循環
8	競技者の運動生理学的特徴
9	競技者の外傷予防
10	外傷の発生原因
11	外傷の予防対策
12	競技者の外傷予防のための実技 メディカルチェック
13	外傷予防に必要なコンディショニングの方法と実際
14	種目別の外傷予防とその実際
15	定期試験
16	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習 I ）

学科名 柔道整復科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所，臨床実習施設等）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
施術および施術所の運営についても見学する。

3 授業の方法

各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。
一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

配付資料「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

資格取得後、実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。

体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合、必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 永田 俊晴 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 実務経験 有

整骨院にて施術者として勤務。患者への施術経験をもとに講義を行う。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (臨床実習 I)

回数	授業内容
	2月の間で5日日間(45時間)の臨床実習を行う。